

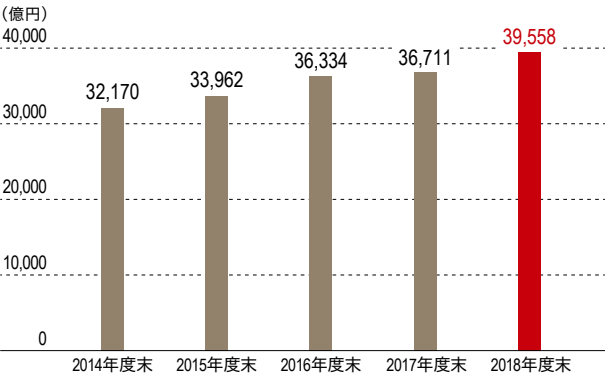
財務

財務・収益基盤

トップライン指標

保有契約年換算保険料

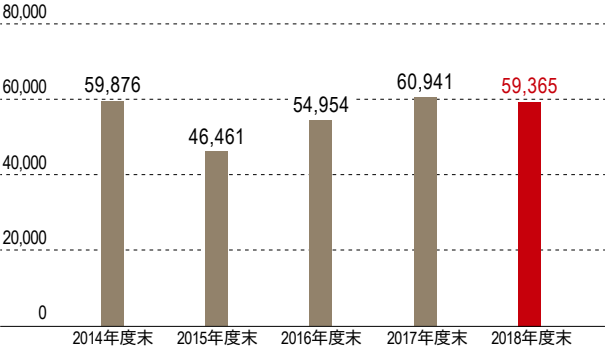
3兆9,558億円



企業価値指標

グループEEV(European Embedded Value)

5兆9,365億円



健全性指標

経済価値ベースの資本充足率 169%

連結ソルベンシー・マージン比率 869.7%

資本効率指標

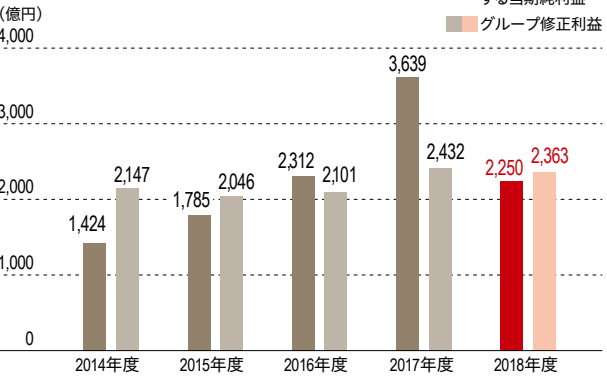
ROEV(上場来平均) 10.2%

※1 株主還元の原因となる当社独自の指標。  
※2 2018年度の946億円には、2019年5月15日の取締役会において決議した自己株式取得の上限金額280億円が含まれています。  
※3 2015年度までは連結修正純利益、2016年度以降はグループ修正利益に対する総還元性向。  
※4 第一生命の格付(2019年7月末時点)。格付は、格付会社の意見であり、保険金支払いなどについて格付会社が保証を行うものではありません。また、格付会社の判断により、将来的には変化することがあります。

利益指標

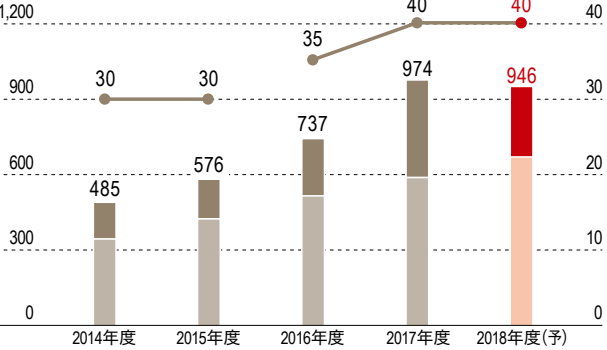
親会社株主に帰属する当期純利益／グループ修正利益 ※1

2,250億円／2,363億円



株主還元総額 ※2／総還元性向 ※3

946億円／40%



格付情報 ※4

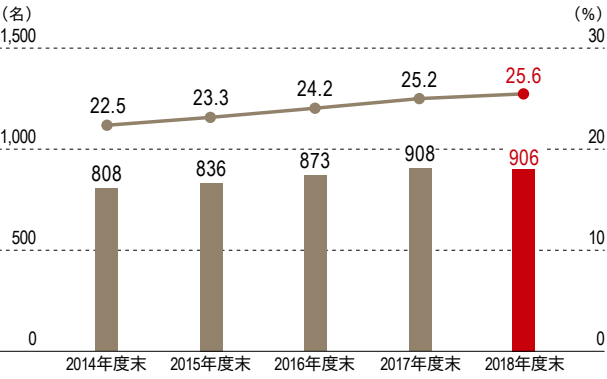
格付投資情報センター(R&I) AA- 保険金支払能力  
スタンダード・アンド・プアーズ(S&P) A+ 保険財務力格付  
日本格付研究所(JCR) AA- 保険金支払能力格付  
フィッチ・レーティングス(Fitch) A+ 保険会社財務格付

非財務

人財

女性管理職数／女性管理職比率

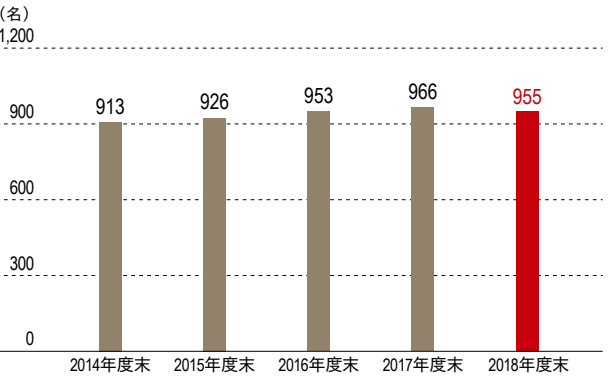
906名／25.6%



※当社および国内生保3社の合算。4月1日時点の数値を前年度末数値として表示。

障がい者雇用数

955名



※当社、第一生命、第一生命チャレンジド、第一生命ビジネスサービス、第一生命情報システムの合算。4月1日時点の数値を前年度末数値として表示。

ブランド力

日本国内3社保有契約件数



約1,546万件

ベトナム保有契約件数



約91万件

米国保有契約件数



約860万件

オーストラリアお客さま数



約450万名

ESGインデックスへの採用

第一生命グループは、世界各国のESG評価機関より高い評価を得ており、国内外のESGインデックスに組み入れられています。(2019年8月時点)



第一生命の  
スチュワードシップ活動に対する評価

Signatory of  
**A+** PRI Principles for Responsible Investment

PRIは、国連が提唱する責任投資のグローバルスタンダードです。第一生命は、PRI事務局によるスチュワードシップ活動に対するアセスメントにおいて最高評価のA+を受けています。(2018年度)



# 「一生涯のパートナー」として、 これまでも、これからも



創業当時の社屋(東京日本橋新右衛門町)

Since 1902

## 創業の理念 ～「一生涯のパートナー」の原点～

明治末期の日本、利潤のみを追求する保険会社も多く、生命保険は価値を理解されぬまま信頼を失いかけていました。創業者矢野恒太は、変革の精神によって日本初の相互会社である第一生命を設立。精緻な保険料算定と徹底した経費節減により高配当を実現することで、「死ななければ損」とまでいわれていた当時の生命保険が、財産形成の手段として役立つことが次第に認知され、生命保険業界の信頼構築にも貢献しました。最良の追求によってお客さまからの信頼を獲得し、当時の社会課題であった「国民生活の安定」に生命保険事業を通じて貢献する——。その先鞭をつけたのは、当時ベンチャー企業に過ぎなかった第一生命でした。



創業当時の役員



2019

## 安心の最高峰を、地域へ、世界へ

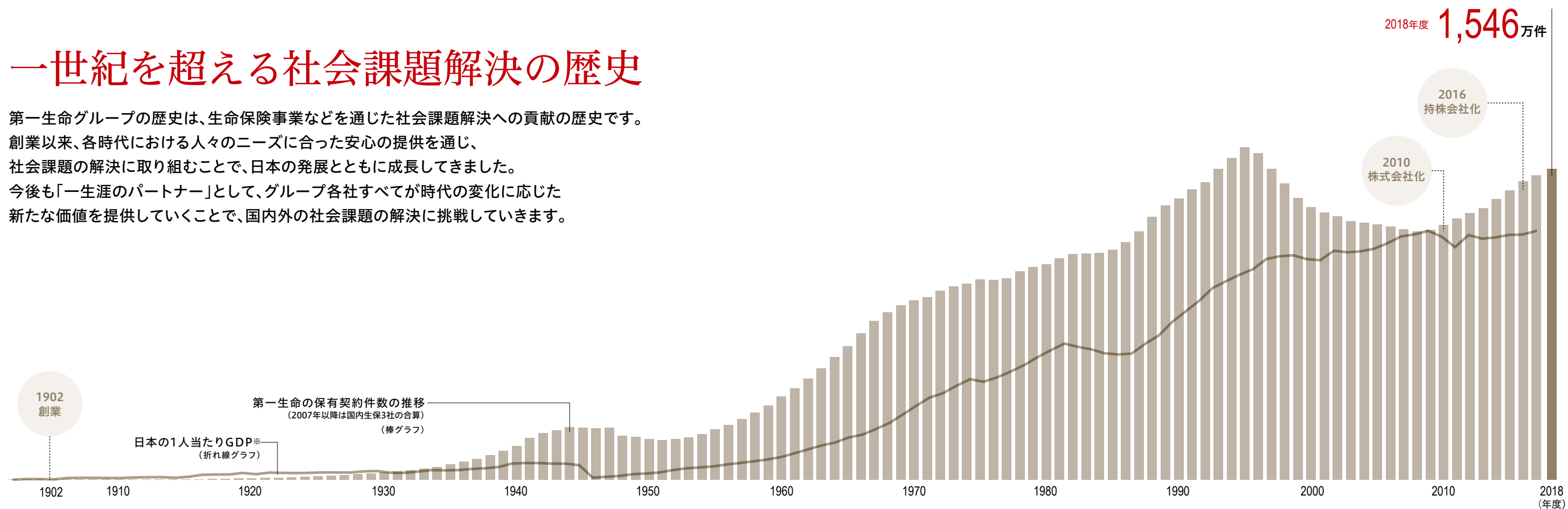
第一生命の創業から117年。第一生命グループは、日本国内に3社、海外7カ国に7社、国内外に2社のアセットマネジメント事業会社を擁するグローバルな保険会社グループとなりました。創業者の「最良の追求」と「変革の精神」は、グループミッション「一生涯のパートナー」の原動力として、今もグループ7万名の社員に生き続けています。安心の最高峰を、地域へ、世界へ——。第一生命グループはこれからも事業を展開する世界中のすべての国と地域で、人々のさまざまなニーズに応えていくとともに、社会課題の解決に貢献していきます。





# 一世紀を超える社会課題解決の歴史

第一生命グループの歴史は、生命保険事業などを通じた社会課題解決への貢献の歴史です。創業以来、各時代における人々のニーズに合った安心の提供を通じ、社会課題の解決に取り組むことで、日本の発展とともに成長してきました。今後も「一生涯のパートナー」として、グループ各社すべてが時代の変化に応じた新たな価値を提供していくことで、国内外の社会課題の解決に挑戦していきます。



## 1900年代～

### 社会インフラが未整備な中 生活の保障が社会ニーズに

- 貯蓄性商品による財産形成の補助
- 結核撲滅に向けた貢献



- ・業容を拡大するなか、貯蓄性に優れた保険を日本全国で提供し、国民の財産形成を補助
- ・当時日本で最も多い死因であった結核の予防・治療を目的に、「財団法人保生会」を設立

## 1950年代～

### 戦後復興期における自立再建と インフラ整備が急務に

- 所得増大、核家族化を支える保障性商品の普及
- 公衆衛生、循環器疾患・がん対策への貢献
- 投融資を通じて戦後の復興にも貢献



- ・万々に備える保障性商品の提供を通じ、戦後の家計の安定に貢献
- ・日本の保健衛生の向上に取り組む団体・個人に感謝と敬意を捧げる賞である「保健文化賞」を創設
- ・投融資を通じ、戦後復興を支えるインフラ整備、企業の成長を後押し

## 1990年代～

### 高齢化社会の本格到来 保障ニーズの多様化

- 死亡保障に加え、医療・介護・老後などへの備えを提供、高齢化社会の要請に対応



- ・独自の「生涯設計」に基づく提案・フォローで、多様な人生設計の実現に貢献
- ・大胆な提携戦略(損害保険、がん保険などでの提携)により「生涯設計」の付加価値を向上

## 2000年代～

### 価値観の多様化、科学技術の進歩による 新たなお客さまニーズ・社会課題の発生

- 科学技術の進化なども活用した多様な商品・サービスの提供を通じ、人々のQOL向上に貢献



- ・健康増進などQOL向上を訴求する商品戦略、サービスを国内3ブランドで展開し、最適なチャネルでお届けする体制を確立
- ・お客さま・社会のニーズの変化を先取りするビジネスパートナーシップを拡大、科学技術の進化を活用した新たな価値提供も探索



### 最良の追求 —「真っ直ぐに」お客さまと向き合う

第一生命グループは、創業者矢野恒太が掲げた「お客さま第一主義」に基づき、お客さまや社会の課題に向き合い、これらの課題を解決することで自らも成長していく経営を絶えず目指してきました。こうした信念は、グループの事業展開が日本から世界各国へと広がった今も、そして今後も変わることはありません。

創業者 矢野 恒太



### 変革の精神 —「真っ先に」変革に挑戦

第一生命グループの歴史は、絶えず変革に挑戦してきた歴史でもあります。日本初の相互会社としての設立という果敢な挑戦に始まり、2010年の株式会社化やその後の持株会社体制移行も、時代に合わせて自らを変革してきた証です。2007年からは、お客さまニーズの多様化を先取りした国内マルチブランド展開を開始、さらに日本の生命保険会社としていち早く海外事業への展開を図るなど、変革への飽くなき挑戦は今も続いています。



株式会社化・上場時セレモニー (2010年)

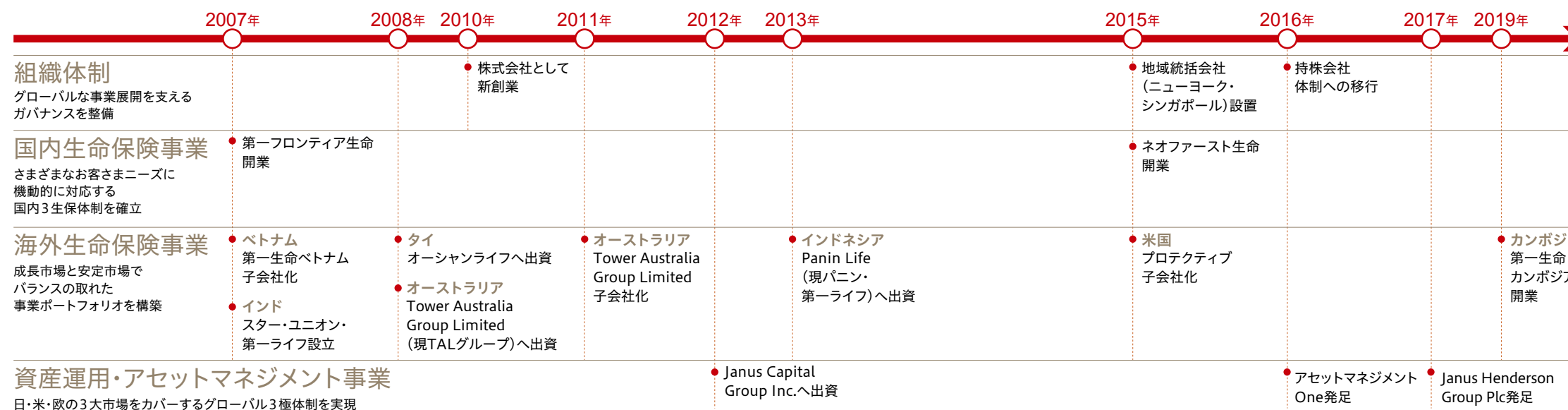
※ Maddison Project Database, version 2018. Bolt, Jutta, Robert Inklaar, Herman de Jong and Jan Luiten van Zanden (2018), "Rebasing 'Maddison': new income comparisons and the shape of long-run economic development", Maddison Project Working paper 10. For the references to the original research on individual countries, see Appendix A of Bolt et al. (2018).

# 成長を支える事業基盤

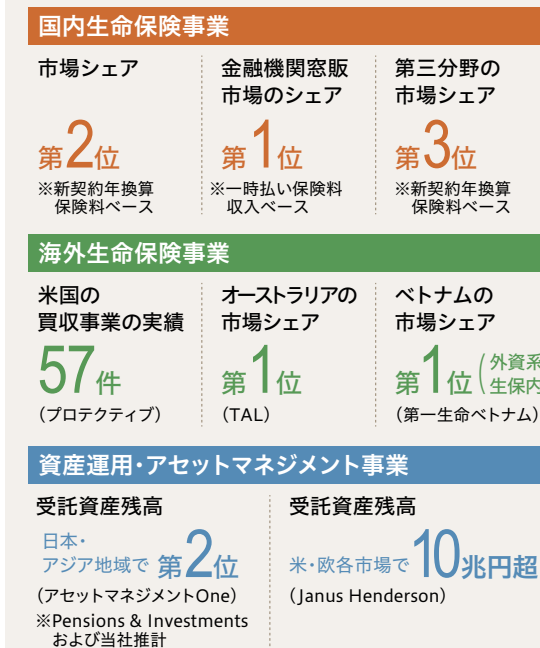
創業以来培ってきた多様な人財・ノウハウや高いブランド力、健全な財務基盤といった  
当社の強みをベースに、この約10年で国内外の事業の多様化・拡大を大きく進めてきた結果、  
グローバルに事業分散の効いた確固たる事業基盤を構築しています。



## 2007年以降の第一生命グループの変革



## 確固たる事業基盤

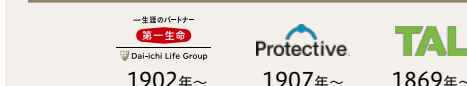


## 人財・ノウハウ

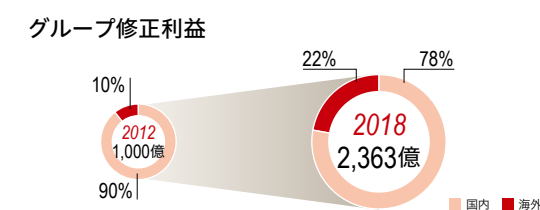


## INS TECH

## 長い歴史の中で築いたブランド力



## グローバルな事業分散の進展



## 連結保険料等収入

